

会 議 録

会議名 (審議会等名)		令和 6 年度第 2 回愛川町町民参加推進会議協働事業審査部会 (提案型協働事業)		
事務局 (担当課)		総務部住民協働課 内線 3 2 4 3		
開催日時		令和 6 年 1 1 月 2 2 日 (金) 午前 1 0 時～午後 0 時 5 分		
開催場所		愛川町役場 2 階 2 0 1 会議室		
出席者	委 員	5 人 (別紙のとおり)		
	その他	4 人 (提案団体及び事業担当課)		
	事務局	4 人 (総務部長、住民協働課長、ほか 2 人)		
公開の可否		☒ 公開 ☐ 一部公開 ☐ 非公開	傍聴者数	1 人
非公開・一部公開の場合は、その理由				
会議次第		1 開 会 2 あいさつ 3 議 題 (1) 愛川町町民参加推進会議協働事業審査部会 (提案型協働事業) 審査の進め方について (2) 令和 7 年度実施の協働事業の応募状況について (3) 個別ヒアリング (1 事業) 4 審査結果の取りまとめ 5 講評 6 その他 7 閉会		

審 議 経 過

(1 / 1 0)

※審議の要旨は次のとおり

(それぞれ、○は委員、□は提案団体、■は事業担当課、△は事務局の発言)

<会議開会前に個別ヒアリングは公開と決定>

1 開 会

2 あいさつ (古賀会長)

3 議題

(1) 愛川町町民参加推進会議協働事業審査部会 (提案型協働事業) 審査の進め方について

<事務局説明>

(2) 令和7年度実施の協働事業の応募状況について

<事務局説明>

(3) 個別ヒアリング (1事業)

① 【子育て支援「寺子屋くすくすの木事業」】 (非営利組織寺子屋くすくすの木／指導室・教育開発センター)】

<提案団体から事業の概略・ポイント等の説明>

○ (A委員) くすくすの木が実施しているような事業で、取り組みが進んでいる団体等やその中で、参考にしている点はあるか。

□ 大和市での取り組みが進んでいると考えており、児童生徒の送迎サービスを参考に取り入れている。

○ (B委員) 今年度の事業から送迎サービスがスタートしたが、内容や運営方法を

※主な発言の要旨等、審議経過がわかるように記載すること。

審 議 経 過

(2 / 1 0)

教えてほしい。

- ☐ 団体スタッフが児童生徒を送迎する役割を担っており、学校と連携を取りながら、送迎の支援が必要な児童生徒に対して、支援を行っている。その送迎によって、かかったガソリン代を協働事業負担金から支出して運営している。現状は、2人が送迎サービスを利用している。

○（Ｂ委員） 送迎サービスに関しての役割分担については、送迎サービスの運営が団体の役割で、送迎の支援が必要な児童生徒と連絡等の調整を行うことが、行政の役割ということなのか。

- ☐ 送迎サービスに関しては、団体が担っており、児童生徒との連絡は、行政と連携しながら、双方で行っている。

○（Ｃ委員） 町との協働とのことで、事業の役割分担はどうなっているのか。また、協働事業よって、団体側で負担軽減したことはあるのか。

- ☐ 団体単独では、支援が必要な児童生徒の個人情報の取り扱いが難しい中、行政と連携することにより、学校や家庭間とのパイプ役を担ってもらうこと。また、事業内容によって、お互いがどの役割を担うのか話し合い、事業内で分担して取り組んでいる。

○（Ｃ委員） その取り組みにより、団体側の負担は軽減したのか。

- ☐ 軽減した。担当課の職員が現場を見学に来てくれたり、活動報告等の会報を積極的に小中学校へ拡散してくれて助かっている。

○（Ｃ委員） 小中学校に実施事業の告知する役割は、行政が担っているのか。

審 議 経 過

(3 / 1 0)

■ はい。団体が発行した活動報告等の会報を各小中学校へ届けたり、教員にも見ていただいている。

○（Ｃ委員） 不登校の児童生徒は、学校に来れず会報を見られなかったり、支援が必要な外国籍の児童生徒は、日本語が理解できないため、読むことができないと思うが、告知で工夫していることはあるのか。

■ 今年度より、学校相談員、町の相談指導教室、くすくすの木や教育委員会と定期的に集まる機会を設けて、支援が必要な児童生徒の対応方法等の話し合いや、学校相談員が学校へ行く際に同行し、学校の情報をキャッチしやすいように工夫している。

○（Ｃ委員） 外国籍の児童生徒の場合は、外国語版の会報を提供しているのか。

□ はい。多言語版を作成して配布したり、通訳を介して、説明することもある。

○（Ｄ委員） 複数の事業をしているが、対象となる児童生徒の人数と実際に参加している人数の差は大きいのか。

□ 昨年度の町内の不登校児童生徒は１７６人であったが、現在は１人の参加となっている。家庭との連携が難しく、参加する意思があっても、実現できないことが多い。外国にルーツを持つ児童生徒を含めた支援を行っている全体の人数は、昨年度１６人であったが、現在は１０人の参加となっている。今年度は特に、登校児童生徒の参加が少ない結果となっている。

■ 補足であるが、町の方でも校内に校内支援センターが立ち上がっており、不登校児童生徒の居場所作りを行っている。また、相談指導教室を設け、不登校児童生徒

審 議 経 過

(4 / 1 0)

の支援を行っている。数多くの学びの場を提供しており、その中の1つとして、くすくすの木にも役割を担ってもらっている。

○（D委員） くすくすの木以外にも、不登校児童生徒支援を行っている窓口があるとのことだが、どこにも参加していない児童生徒も多いということなのか。

■ 長期欠席をしている不登校児童生徒の中にも、どこにも通えていない人も多いが、学校側としても、連絡を取って様子を見るなど、繋がりを持ち続けている。そういった児童生徒に対し、足を運んでもらえるように、複数の支援の窓口を用意するなど工夫をしている。

□ 本団体では、足を運べない児童生徒に対しても、タブレットなどを活用したオンラインでの支援を行っている。

○（B委員） プレクラス・プレスクール事業等は、今年度から事業を行っていると思うが、団体としての手ごたえはどう感じているか。

□ 今後の子どもたちの人生に関わるため、もっと課題意識を持って取り組まないといけないと考えているが、手ごたえは 感じている。

○（B委員） 教育委員会としては、くすくすの木の事業をどのように評価しているのか。

■ 不登校児童生徒の支援や外国にルーツを持つ児童生徒への教育は、取り組まなければならない課題だと町でも認識をしているが、実際は全体をカバーしきれていない現状がある。町でも多様な支援策の提供に努めているところであるが、くすくすの木の活動は素晴らしいものだと評価している。

審 議 経 過

(5 / 1 0)

○（Ｂ委員） 提案書を見ると将来的には、プレクラス・プレスクール事業を行政主導で行ってもらいたいとあるが、その理由は何かあるのか。

□ 県内でも外国籍住民の比率が高く、現在も増加傾向にある愛川町で、本団体のみで支援していくには、限界があると考えているためである。

○（Ａ委員） 事業の中に農業体験を入れているが、土に触れる活動は素晴らしいことなので、今後も継続して行ってほしい。町の役割で、情報の把握とあるが、定期的に住民等がオープンに行政職員と相談できるような窓口の設置はあるのか。

■ 現在、設置はしていない。

○（Ａ委員） 他の市町村では、住民等がオープンに行政職員と相談できる窓口を設置しており、そこで不登校や、障がい働けない等の色々な相談があり、情報の把握を行えるため、あってもいいのではないかと思う。

○（Ｃ委員） 不登校や日本語教育が必要な児童生徒が大勢いる中、本事業では、１０名ほどの参加にとどまっているが、参加者が増えない理由をどのように考えているのか。

□ 学校に周知を行っても反響が弱く、学校ごとに我々の活動に対する受け止め方に違いがあると考えている。

○（Ｃ委員） 町としてはどのように考えているのか。

■ 学校の担当者会議に出席することで、現場との連携の輪を広げて、困り感のある子どもについての理解を深めていくことや、引き続き、学校内や教員へのくすくすの木の実業の周知を継続していくことが必要だと考えている。

審 議 経 過

(6 / 1 0)

○（Ｄ委員） 水曜日の同じ時間帯に複数の事業を実施する計画となっているが、実施する際は事業ごとに場所を分けて支援を行っているのか。

□ はい。基本的にはマンツーマンで支援を行っているが、児童生徒によっては、複数人いる場所だと泣き出してしまう子どももいるため、別の施設を借りるなど、配慮して実施している。

○（Ｄ委員） 提案書に送迎が充実したとあるが、半原地区の学校から送迎サービスを利用して、事業に参加している児童生徒はいるのか。

□ 現在、半原地区から参加している児童生徒はいない。

○（Ｂ委員） 現在の団体会員数が、１５名と昨年度の２０名から減少しているが、事業運営に支障はないのか。また、後継者の育成や新規会員の発掘活動は行っているのか。

□ 介護などの家庭の事情等で、脱退していく会員が多い。後継者の発掘では、大学生のボランティアを受け入れており、今後、本団体の役割を担ってくれればいいと考えている。児童生徒の個人情報の保護の観点から、守秘義務を遵守していただく方に限られることから、新規会員の開拓が進まない背景もあるが、その部分は、各会員がきめ細かい対応を行い、補ってくれている。

○（会長） 今までのやり取りを聞いていて、専門窓口の設置、事業参加者の増加、団体会員数の増加などの必要性から、団体会員数に関しては、守秘義務の理由で、増やしすぎてはいけないという複雑化している問題を解決することは、難しいことだと感じた。それらの対策ができるシステムを構築していけるといいのではないかと

審 議 経 過

(7 / 1 0)

と思う。また、多様化している問題に対して、体験型の活動から進めていくのがいいのではないかと思うが、充実していくためには、多様な人材が必要であるが、協力者はいるのか。

□ 農業体験については、団体の顧問が長けており、力を借りて実施しているが、普段は別に仕事をしているため、高頻度の実施は難しい。体験型の活動充実という面では、人材が不足してると感じている。

4 審査結果の取りまとめ

<事務局説明及び各委員審査結果の取りまとめ>

5 講 評

○（B委員）

- ・ 団体の活動実績や、会員の専門性を活かしたきめ細やかなサービスを提供しており、協働事業に適している事業だと評価している。
- ・ プレスクール・プレクラス等の事業に関しては、過去の実践等の経験から、ニーズにあった事業へ進化させていく姿勢は、素晴らしいことである。
- ・ 今後も事業を安定的に継続させていくためには、会員の入会や後継者の育成が大切になってくるため、意識して取り組んでいてもらいたい。

○（C委員）

- ・ 事業への参加者が少ないことが残念であり、増加していくことによって、解決することもあると思うので、見学会、無料体験会や学校での実演等を行い、事業の認知度を高める取り組みをしてもいいのではないか。

審 議 経 過

(8 / 1 0)

・マンパワーを増やすことが大事だと考えており、会員が増加すればできることも増えていくと思う。

・将来的には町にこの事業を担ってもらいたいと考えている中でも、団体と町との役割分担を考えて行って欲しい。

・外国籍住民が多いのは、町の特色であるため、子どもたちの将来のためにも、この事業を継続して行ってもらいたい。

○（A委員）

・協働事業の中でもこの事業は良い事例であり、この取り組みについて、進んでいる事例が他市町村等にも存在しているので、調べるなどして参考にして行ってもらいたい。

・この活動を広げていくためにも、色々な場でPRして行ってもらいたい。

・本団体で実施している農業体験などの体験型の事業実施は特に良いと考えており、さらに発展して行ってもらいたい。

○（D委員）

・この事業は有益であり、重要であると考えており、本団体は、事業目的、実施能力、熱意や意欲がとても感じられて、素晴らしいと考えている。

・今年度から協働事業にステップアップし、事業が進めやすくなり、町民活動応援事業の時よりも良くなったと考えている。

・この事業を継続して行って欲しいと考えている中、現在の参加人数が10人と少ないことが意外であり、より多くの対象者の人々に事業の存在を知ってもらい、参加

審 議 経 過

(9 / 1 0)

者を増やしてもらいたい。

- ・団体の会員数について、昨年度から減少していることで、大学生にボランティアとして参加してもらうよりも、確実に参加してくれる会員を増やした方が、事業の継続に繋がるのではないかと考える。

- ・提案型協働事業での事業継続は、3年間の期限があるため、その後もどうやって事業を継続していくのかという点を検討して欲しい。

○（会長）

- ・事業としては有益であり、会員一人一人がきめ細かい支援を行えていることが、昨年の成果や今回提案があった計画からも十分に見てとれる。

- ・定期的に活動できる会員、様々な事業を展開する上で、必要な人材や専門的な役割を果たす人材を持つことも大切である。

- ・大学生のボランティアが来てくれることがあるとのことだが、大学と連携して、安定したボランティアを確保する取り組みも必要だと考えている。

- ・事業への参加者を増やすことが、大きな課題ではないかと考えており、情報の発信を継続的に行うための連携をより図って欲しい。

- ・事業運営に関しては、行政との役割分担が重要である。

- ・事業の継続に関しては、今後、町で他の名目で補助金を捻出する選択肢の他に、県や国の補助金を得る手段もあるため、行政と連携し、検討していてもいいのではないかと思う。

- ・今後重要なことは団体の自立であり、それには資金が不可欠であるため、まずは運

審 議 経 過

(1 0 / 1 0)

営に必要な経費を具体的に算出して、予算化するなどの視点も必要であると考えている。

- ・協働事業の実施期間内に課題の割り出しは行いながら、事業内容のマニュアル化を行い、モデルプランを作成することで、他の団体や行政などに PR するときの材料になると思う。

6 その他

＜事務局から事務連絡：会議録の確認方法、報酬の支払い、今年度実施の町民活動応援事業の取り組み状況報告について＞

○（B委員） 今回の審査部会で提案があったのは、住民提案型事業1件であり、昨年と同様の件数であったが、行政提案型事業の募集はしなかったのか。

△ 各課に募集は行ったが、エントリーする課がなかった。

○（B委員） 行政として住民と連携して取り組むような課題はないと思ってしまいが、そういうことはなく、課題は存在すると考えている。協働の促進を担当する課としても、積極的に働きかけるべきであり、担当課と実施団体を繋ぐ取り組みを行ってほしい。

△ ご意見は真摯に受け止めさせていただき、町として取り組んでいきたい。

7 閉会

会長(委員長)
署名欄

古賀 淳

愛川町町民参加推進会議協働事業審査部会委員名簿

令和6年11月22日現在

氏 名	選出区分	役 職	出 欠
熊坂 良介	公募による町民		出席
小林 文雄	公益活動に実績のある者		出席
小野澤 悟	町の各種施策に知見を有する者		出席
翁長 陽子		副会長	出席
古 賀 学	専門委員	会 長	出席

任期：令和6年4月1日～令和8年3月31日